

令和5年度事業報告

新型コロナウイルス感染症の5類移行により、これまで中止や規模を縮小して開催していた各単位会の事業は、令和5年度は、ほぼ通常通りの活動を再開することができた。

1. 公益目的事業の活動支援

青年部会が実施している「租税教室」と「健康経営」、女性部会が実施している「税の絵はがきコンクール」「手作り雑巾の贈呈」「食品ロス」などの取組みは、更なる内容の充実を図った。

また、県から委託を受けている「かごしま出会いサポートセンター」は、新たなシステムの構築を行う等、結婚を希望する方の応援を行っている。

このような取組みは、法人会がこれまで実施してきた“次代を担う子ども達への情操教育”に加え、環境問題や少子化対策、国の財政健全化など、現代の社会情勢が抱える課題に対する対応策の一助となっている。

2. 組織運営と財政基盤の強化

前年より取組みの強化を図っていた「会員増強運動」は、全ての単位会において、役員が中心となり積極的な拡大を行い、目標としていた会員数1万社を突破し、961社の純増となった。このことで、鹿児島県連は全国1位の最優秀賞に輝くこととなった。会員が増えたことで、組織の強化が大きく図られたものと思われる。

また、令和6年度に開催する全国大会「鹿児島大会」に向けても、実行委員会を開始し、各単位会と連携を図りながら万全の体制で準備を進めている。

3. 公益法人制度が求める法人会運営・管理の強化

県連は、各単位会が円滑に運営できるよう、各単位会事務局の支援を行っている。しかしながら、種子屋久法人会においては、事務局が一時不在となる事態となり、活動が停滞することとなったことから、事前の支援体制のあり方に課題が残った。